

ニホンヤモリの越冬生態に関する観察 (2)

久 居 宣 夫 *

Ecological Observation on Hibernation of Japanese Common Gecko,
Gekko japonicus (Duméril et Bibron) (2)

Nobuo Hisai *

は じ め に

前報 (久居, 1997) で自然教育園内に生息するニホンヤモリが秋～早春に, 教育管理棟付近に設置された左右の案内板の裏で集団越冬していることを, 1995年12月7日～1997年1月22日の観察記録をもとに報告した。観察はその後も継続して実施しており, 今回は1997年1月30日～1998年1月27日の記録について報告する。なお, 観察場所および方法については前回と同様, 教育管理棟際のモルタル堀に設置された2か所の案内板で, ほぼ1週間毎に午前9時～10時の間にヤモリの個体数と位置および行動などを観察した。

結 果 と 考 察

(1) 越冬期間中の観察記録

以下に越冬期間中の観察記録を日付順に記述する。なお, カッコ内は観察時の天候と気温を示す。

1997年

1997年1月30日 (快晴, 4℃) : 右側の案内板 (以下右側, 左側の案内板を左側と略す) にのみ5個体を観察。これらは1成体と4個体 (含1幼体) に分かれ, 下側の4個体は折り重なるように密着。いずれの個体とも全く動かず。

2月6日 (曇, 4.5℃) : 右側にのみ幼体2個体を含む6個体が1か所に重なって密着。1成体のみ緩慢な動きで上部に移動する。

2月14日 (快晴, 5℃) : 右側にのみ1幼体を含む5個体以上が1か所に重なるように密着。動きは全く見られず。

2月25日 (快晴, 8℃) : 右側にのみ6個体を観察。これらは1成体と5個体 (含1幼体) に分かれ, 5個体のグループは重なって密着。行動は全く見られず。

3月7日 (晴, 17℃) : 左側に1成体, 右側に1幼体を含む5個体を観察。左側の成体は右側より移動

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

したものと考えられる。両方の個体とも緩慢な行動が見られる。この時期としては気温がかなり上昇したために、個体間の集合性は小さく右側の個体は縦1列に並ぶ。

3月12日(晴, 9℃): 左側に1幼体を含む3個体, 右側に1幼体を含む5個体を観察。左側の個体は1列に並び, 右側の個体は比較的ゆるやかに密集する。行動は緩慢であるが, 一部の個体はゆっくり歩く。これまでの最多の8個体が確認される。これは, 3月7日に気温が上昇したおりに近接場所で越冬していた個体が移動してきたものであろう。

3月13日(曇, 7℃): 前日同様, 左側に3個体, 右側に5個体を観察。左側の個体は1幼体と2成体に分散し, 右側も3個体(含1幼体)と2成体のグループに分かれる。2個体以上のグループはいずれも重なって密着。ほとんど動かず。

3月15日(雨, 6.5℃): 左側に1幼体を含む3個体が溝の中にそれぞれ離れて潜んでいるのを観察。右側は2成体のみ1列に並んでいるのが見られた。成体はほとんど動かずにいるが, 幼体は活発に行動する。右側の3個体は他所に移動したが, この後も徐々に移動する個体が観察される。

3月19日(晴, 10℃): 左側では1幼体と1成体が1列に並び, 右側では2成体が重なって密着する。成体は全く動かないが, 1幼体は活発に動きまわる。

3月23日(曇, 6.5℃): 左側に2成体, 右側でも2成体がいずれも1列に並ぶ。動きは全く見られず。

3月30日(晴, 16℃): 左側に2成体, 右側に1成体を観察。左側の個体は活発に行動するが, 右側の個体はほとんど動かず。

4月3日から9月4日までは左右の案内板で0~2個体が観察されるにすぎず, また行動も敏捷であった。したがって, 上述の観察から3月下旬頃に越冬集団が解消されたと考えられる。

1997年~1998年

1997年10月25日(晴): 左側に1幼体と1成体, 右側に4成体が潜んでいるのが観察された。そして, それ以降は常時複数個体が確認されたことから, この時期に越冬集団が形成されたと考えられる。

11月4日(晴): 左側に1幼体と1成体, 右側に2成体が観察される。行動は敏捷である。

11月15日(曇, 13℃): 左側に1幼体, 右側に4成体を観察。行動は敏捷。

11月30日(晴): 左側に1成体, 右側に4個体(含1幼体)を観察。行動は緩慢である。

左側の案内板ではこの日以降全く観察されず, 上記の左側の成体は右側に移動したものと考えられる。したがって, 以下の記録は全て右側の案内板の観察によるものである。

12月5日(快晴, 5℃): 1成体と4個体(含1幼体)の2グループに分かれる。4個体のグループはほとんど動かず, 重なって密着。

12月12日(快晴, 7℃): 2成体と2個体(含1幼体)に分かれる。1個体は他所に移動。いずれの個体もほとんど動きは見られない。

12月21日(快晴, 10℃): 1成体と3個体(含1幼体)の2グループに分かれる。3個体のグループは重なって密着。いずれの個体もほとんど動かず。

12月25日(快晴, 3℃): 4個体が折り重なるようにして密着。全く動かず。

1998年1月7日(晴, 5℃): 1成体と3個体(含1幼体)の2グループに再び分かれる。3個体のグループは重なって密着。全く動かず。

1月11日(曇, 3℃): 4個体が折り重なるようにして密着。全く動かず。

1月20日(晴, 1℃): 1成体と3個体(含1幼体)の2グループに分かれる。3個体のグループは重なって密着。いずれの個体も全く動かず。

1月27日(晴, 7℃): 同上。

以上の観察から、ニホンヤモリが活動できる最低気温は5℃前後であり、その気温を境に越冬場所内を移動して、越冬個体同士が離合集散する行動が観察される。すなわち、5℃以下では1か所に集合して互いに体を密着し、6～7℃以上になると集合性が弱くなる。そして、さらに気温が上昇すると、この案内板と他所の越冬場所間で移動する例があることも観察された。

(2) 越冬場所への移動時期と越冬集団の形成

春～秋に単独生活をしているニホンヤモリは、9月中旬頃に越冬場所に移動してくる。しかし、この集団はそのまま越冬場所に定着するわけではない。例えば1996年の場合、9月16日に案内板に移動してきた集団は間もなく離散し、越冬集団の形成が確認されたのは11月17日になってからである(久居, 1997)。同様に、1997年でも9月18日に左側の案内板で5個体が観察されたものの、その後はやはり離散し、越冬集団としては10月25日以降確認されている。これらの観察結果から、ニホンヤモリは初秋の頃に何回か越冬場所に移動した後、気温の低下とともに越冬場所で次第に定着し集団化すると考えられる。

引用文献

久居宣夫. 1997. ニホンヤモリの越冬生態に関する観察. 自然教育園報告, (28): 1-5.